

## 熊本大学学術リポジトリ

### Kumamoto University Repository System

Title	編輯者の不平
Author(s)	
Citation	龍南會雜誌, 154: 178-178
Issue date	1914-06-20
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2298/6338">http://hdl.handle.net/2298/6338</a>
Right	

大仕掛けの徽が残つて居てそれを掃ひ落さねばならぬ。五高を取りまいて居る數百本の青い滴る様な松が如何に颯々の音を立て様ども玄關の前の蘇鐵の葉が如何にフレッシュであらうとも五高の内部には腐り煤けた大塊が蟠つて居る之を一掃した後に始めて眞の價值が生ずる。吾人は教場に於て咀呪せねばならぬ或る學課時間のあるを悲む。師とするに足らぬ師のあるのを悲む

### 編輯者の不平

一体龍南會雜誌なるものは何の役に立つものか自分には解らぬ、つまらぬ事が多い。承はらなくとも差支へぬものが澤山ある。殊に今度の演說部報などは全く小學校式だ。批評とは賞むるものなりと確信して書いたものらしい。雜誌部の後繼者たるものはよろしく自覺してもつと有益なるものが面白いものかをのする様に戒心すべし。然らずんば雜誌部は全廢するがよい。ニチアニチアしきニキヒ文學も全滅する要がある。

本號卷尾に掲載すべき筈であつた脚本『厨川秋物語』（四三頁）の再度の稿を了へんとした時、突然、編輯の都合上、既に印刷に付した諸原稿で紙數が充つることになりましたので、殘念がなら割愛するの止むなきに至りました。材料を給して下さつた御方や、私が此稿につきた洩し申上てゐた御方に對しては、寔に氣の毒でなりません。が、私自身さへも殘念に思つてゐることに免じて、御諒察をねがふ次第であります。

山下 雅實